



2024年11月15日

各位

会社名 イシン株式会社  
代表者名 代表取締役社長 片岡 聡  
(コード番号: 143A 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役 管理本部長 丸山 広大  
(TEL 03-5291-1580)

## 2025年3月期 第2四半期 決算に関する質疑応答集

11月8日に発表した2025年3月期第2四半期決算に関して、当社で想定しておりました質問及び発表以降に、株主、投資家などの方々から頂いたお問い合わせに対して回答をまとめましたので、以下の通りお知らせいたします。

なお、本開示は市場参加者のご理解を深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

記

### 2025年3月期 第2四半期 決算説明動画

発表者	視聴 URL
代表取締役社長 片岡 聡	<a href="https://ishin1853.co.jp/ir/presentations.html">https://ishin1853.co.jp/ir/presentations.html</a>

**Q. 第2四半期決算における業績は、前年同期比で増収・減益となりましたが、主な要因を教えてください。**

A. 公民共創事業における BtoG プラットフォームの高単価プランが売上増加に寄与したことに加え、メディア PR 事業では9月に開催された「Best Venture 100 Conference」のイベントスポンサーの受注が好調に進捗した結果、売上高は堅調に成長し、前年同期比 2.3%増となりました。

一方、利益面では、増員及び業務委託費用などの増加により、営業利益は前年同期比 29.5%減となりました。また、一時的な円高によるファンドでの為替差損が影響し、経常利益は 39.1%減、当期純利益は当社ファンドである IGF (LP) で発生した損益のうち約 2%のみを計上するため、14.3%減となりました。

**Q. 営業利益は前年同期比で減益となったものの、計画を上回ったとありますが、この点について詳しく教えてください。**

A. 営業利益は前年同期比で減益となりましたが、計画比では順調に推移しております。増員に伴う人件費の増加など、一時的なコストの増加は計画に織り込んでおり、採用も計画通りに進捗いたしました。また、公民共創事業において BtoG プラットフォームが好調に推移したことにより、売上総利益率が改善しました。さらに、生産性の向上により採用費などのコストが予想よりも抑えられ、営業利益が計画を上回りました。なお、営業利益については下期にかけて増加を見込んでおり、通期では増益を計画しております。

Q. グローバルイノベーション事業について、前年同期比で売上高が減少（△3.6%）している理由を教えてください。

A. 主に、主力サービスである成長産業に特化した情報ポータルサイト「BLITZ Portal（ブリッツポータル）」において、為替変動の影響を受けたためです。特に、一時的な円高の進行により、海外市場での収益が減少いたしました。なお、アカウント数は堅調に推移しており、またコストについては最適化を図ったことで収益性が改善し、引き続き安定した収益基盤を維持しております。

Q. 公民共創事業の通期計画に対する売上高進捗率が前年同期比で下回っている要因を教えてください。

A. 主に下期にかけて増収を見込んでいるためです。今期の計画においては、上期に営業人員6名の増員を行い、新規受注を増加させることで、下期に売上高の成長を見込んでおります。上期の増員については、計画通りに実施されており、また、売上高は前年同期比で増加し、概ね計画通りに推移しております。

Q. 株式会社ライスカレーの上場に伴う投資利益を計上した一方で、営業利益よりも更に経常利益が減少している要因を教えてください。

A. 株式会社ライスカレーの上場に伴い、持分法による投資利益として約12百万円を計上しましたが、一時的な円高の進行により、ファンドで為替差損が発生し、経常利益に約△19百万円のマイナス影響を及ぼしました。

Q. 第2四半期決算において、為替相場の変動が業績にどのような影響を与えたか教えてください。

A. 第2四半期決算において、9月末時点の円高の進行が当社の業績に一時的な影響を及ぼしました。特にグローバルイノベーション事業では、円高により海外市場での収益が円換算で減少しました。なお、コストも同様に減少したため、利益への影響は限定的でした。

ファンドにおいては為替差損が発生し、これを営業外損失として計上したため、経常利益に対してはマイナス要因となりました。なお、当期純利益は、当社ファンドであるIGF（LP）で発生した損益のうち約2%のみを計上するため、最終的な利益への影響は軽微にとどまりました。

Q. 通期予算達成の確度はどの程度でしょうか。また、予算修正の予定はありますか。

A. 概ね計画通りに進捗しており、現時点で業績予想の変更はございません。

Q. 新たに立ち上げたHR事業開発室の具体的な事業内容と、この事業が今後どのように全体の成長戦略に貢献していくかについて教えてください。

A. HR事業においては、スタートアップ企業や成長企業に対する人材供給を強化し、成長意欲の高い「イノベーション人材」に対しより多くの活躍の場を提供すると共に、ベンチャー企業の発展を支援することを目的としております。当社が長年にわたり築き上げたベンチャー企業との強固なネットワークを最大限に活用

し、成長企業に特化した人材紹介事業を提供します。今後は、人材紹介のソリューションを拡充し、中長期的にはメディア PR 事業領域だけでなく、他事業領域にも拡大したいと考えております。

Q. LX DESIGN 社への出資について、進捗があれば教えてください。

A. LX DESIGN 社への出資については、現在、出資後の連携体制を強化しながら、同社の成長支援に注力しています。特に、教育現場におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するため、当社の自治体向けマーケティング支援のノウハウを活かし、自治体開拓支援を行っていく予定です。

Q. ITC Ventures XI, Inc との販売代理店契約の内容及び契約締結に伴う財務影響を教えてください。

A. 2024 年 11 月 13 日付の「伊藤忠商事株式会社の子会社である ITC Ventures XI, Inc との販売代理店契約締結のお知らせ」で公表いたしましたとおり、伊藤忠商事株式会社の連結子会社である ITC Ventures XI, Inc と「BLITZ Portal」における販売代理店契約を締結いたしました。本契約は IXI の有するネットワークを通じて、当社の国内外における市場競争力を強化し、「BLITZ Portal」を更なる顧客層へと拡大することを目的としています。なお、本件が当社グループの業績に与える影響は軽微と見込んでおります。

<ご参考>

- ・ 2025 年 3 月期 第 2 四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結） 2024 年 11 月 8 日公表
- ・ 2025 年 3 月期 第 2 四半期 決算説明資料 2024 年 11 月 8 日公表

以 上

免責事項

- ・ 本資料は、当社の企業説明、決算説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。
- ・ 本資料に記載される情報は、本資料公表時点における当社の見解であり、将来に関する記述につきましては、今後様々な要因により変動する可能性がございます。